

論点① 今後の京都府農林水産業を支えるために必要な人材について

牧野委員

○高齢者や障がい者の方々については、彼らの生きがい・やりがいとして好循環が創出できると考える。

京都府の方向性に加えて下記のような人材も必要

○京都の食の文化的価値を高める人材、そのような視点や知識をもった人材

○一般社会への発信力を持っている人材

○サステナビリティに貢献できる人材（例；水産であれば「海の環境を保全する人材」）

鈴木委員

○現行の農林水産業に必要な従来の技術や経験者のノウハウを覚えるだけの人材ではなく、それらをベースとして自ら新たな技術や方法を工夫し農林水産業の現場の活動の中で実践できる人材（覚える人材から考え・実践できる人材へ）

○農林水産業以外の異分野・異業種に対しても広く関心を持ち、その付加価値を高めるために適用可能な要素を自ら探索し考え続けられる人材

○（前述の人材の将来像として）起業家人材

○農林水産業以外の異分野・異業種における高度化人材の農林水産業への迎え入れ（上記3項目は育成、本項目は育成ではない点に留意）

○海外の農林水産業従事者との交流による国際的な視点・感覚を持つ人材（将来の国際マーケット開拓等）

○限定的な海外人材の受入れ（過度の人材不足の場合の一つの対応策として）

事前意見聴取結果

論点② ①の人材を育成するために必要な施策について

牧野委員

- 産学公民の中に市民団体やN G Oを含んでほしい。姉妹都市との連携など開かれた世界とのつながりの支援もしていくイメージ

鈴木委員

- 農林水産業の課題及びカリキュラムのオープン化
 - ・農林水産業の課題等の異分野・異業種の研究機関・企業等（例：情報通信、製造業、ヘルスケア・メディカル等）への積極的な情報発信（例えば、研究開発機関はその課題解決に向けた取り組みを行うことができるとともに、自らの研究開発成果をトライアル可能なフィールドとして活用できる）
 - ・異分野・異業種の研究機関・企業等（例：情報通信、製造業、ヘルスケア・メディカル等）との積極的な交流による最先端の技術・製品等の見学・試用機会の導入
 - ・異分野・異業種の研究機関・企業等からの外部講師による講義や体験授業の積極的な導入
- 農林水産業を若者にとってより魅力的な産業へと転換する施策（例えば、フードテックは世界の最先端の潮流である事をきちんと従事者に理解させる施策）
- 農林水産業が抱える課題へのソリューションを提供可能なスタートアップとの協働機会の導入（スタートアップとのオープンイノベーション機会の導入）
- 「(子育て) 女性や高齢者、障がい者などが活躍できる場の創出」に適した新規農法の積極的な活用と導入
- 卒業生が自らの手で若者を教育・育成したいと思う機関として機能し、いわば人材のエコシステムが機能することが重要